The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	継承日本語カリキュラム・プロジェクト
Author(s)	加納, なおみ
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2024, 20周年記念特別号, p. 118-119
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102024
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

≪Column 5≫

継承日本語カリキュラム・プロジェクト

キーワード：継承語としての日本語、カリキュラム、多言語学習者、Japanese as a heritage language, curriculum, multilingual learners

プロジェクトの背景

日本語を海外で学ぶ継承語話者は多言語環境にある「バイ / マルチリンガル」であり、「バイスクーリング」を実践する学習者である。世界中で増え続ける継承語学習者は言語的多様性に加え、現地校と継承語教育機関という２つの異なる「スクーリング」を通じて、多様な文化的価値観・社会的活動を並行して経験し、国際協調・理解を抽象論ではなく、個人レベルで日常的に体験しながら人格形成していく存在である。日本で生まれ育ち、家庭・学校で日本語（のみ）の使用が当たり前の環境で育つ生徒を「規範」とする国語教育の手法を継承語教育に援用し、その「規範」を当てはめることの妥当性にはかねてより疑問も多い。また、日本政府の「認可補習授業校」となるには国語教科書使用が不可欠だが、通常週に 1 度数時間開講される授業を文科省の年間カリキュラム通りに進めるのは現実的に無理があり、教育の質保証には相当な配慮や工夫が必須となる。となると教師の質が問われるが、継承語教育の教員養成は容易ではない。さらに、肝心の継承語学習者自身の生育環境は保護者、特にその言語の母語話者である親と大きく異なるため、学習意欲維持の難しさも認識されている。これら以外に地域固有の課題も多く指摘される継承日本語教育において、問題意識を共有する教育関係者や保護者らをつなげてサポートし合う組織として、MHB 学会の海外継承日本語部会（以下、部会）は国・地域を超えて活動してきた。コロナ禍以降は年次会など主要なイベントがオンラインで開催されるようになり、2021 年、2022 年の年次会では、世界各地の継承語教育組織・団体による先進的事例を紹介する「カリキュラム・プロジェクト」発表会がオンライン開催された（科学研究費助成事業「海外日本語補習授業校におけるリテラシー能力強化をめざす新たな日本語教育プログラム（18K12423、研究代表:加納なおみ)」との共催)。

年次会では、地域のバランス等も考え部会のネットワークを通じて選出された、世界各地の 10 教育機関のカリキュラムが公開された。発表では、継承語学習者が多言語話者であり多様性に富んでいる点を強みととらえる視点から、以下の９項目への言及をプロジェクト運営側から依頼した。①地域社会の言語環境・言語政策、②対象プログラムの位置付け、③対象者の（言語）背景、④学年ごとの到達目標、⑤授業実践の実例（シラバス・授業プラン・教材例・評価方法)、⑥授業における言語使用のルール、⑦教師の確保と研修、⑧依拠した理論的枠組み等、⑨今後の課題、の９項目である。特に⑤「授業実践の実例」を中心に据え、世界各地の継承日本語教育現場が実践例から直接的に学ぶことに加え、独自のカリキュラム作成を試みる際に重視すべきポイントを示し、カリキュラム作成の方法論としても参考になるよう配慮した。次節では発表概要の一部を紹介する。

多彩なカリキュラム：個別性と普遍性

表１　カリキュラムの概要

地域	組織名(発表者；授業頻度)	主な教育目標/方針	紹介された主な授業例	主な使用教材	カリキュラム作成・指導法の特色
アジア	香港日本人補習授業校（香港・ 明石智子，辻内智重；週1回）	世界に生きる日本人としての自覚・誇りをもった、多様な文化や考え方を尊重できるグローバルな人材を育成する	教科横断型（国語・社会）学習	国語教科書；リライト教材；自主作成教材	探究型学習活動；トピックベース；IBの理念や手法；ジャンルアプローチ;調べ学習でのトランス・ランゲージング
	イルサンひまわりキッズ日本語クラブ　（韓国・前田亜津子;週1回）	日本にもルーツをもつ子供たちの将来の選択肢を増やし、アイデンティティ形成を支援しながら、日本語維持の環境を提供する	実験を含む理科の授業	教科書；市販教材；自主作成教材	母語話者を規範としない；マルチグレードでの協働学習・アクティブラーニング；言語間の転移促進
北米	プリンストン日本語学校（アメリカ・リー季里，モイヤー康子，フレミング奈津子，宮林晴美；週1回）	生徒の「多言語性」を包括的にとらえ、グローバルに貢献できる人材を育成する	中高合同プロジェクト（小学生も巻き込んだ全学的活動）	国語教材；市販教材；自主作成教材	年齢相応の知的好奇心を尊重し、学習内容や知識の言語間転移を促進する;生徒の「生活言語」をもとに「学習言語」の習得；ACTFLスタンダード
	モンクトン日本語センター（カナダ・吉澤明子；月2回）	生徒のアイデンティティ形成を支援し異なる文化を尊重する豊かな国際性を育成する	テーマ（2020年の東京オリンピック）に基づく総合学習	自主作成教材・オンライン教材	トピックベースの総合的な内容；CBI，CLIL
南米	サンファン学園（ポリビア・本多由美；週5日）	日系人のアイデンティティと、日本語・スペイン語の高度なバイリンガル能力を育む	コミュニティーの歴史に根差したプロジェクト学習	国語教科書（光村）；自主作成教材	全日制でバイリンガル・バイリテラシーを養成
	アマンバイ日本語学校（パラグアイ・秋山響；週4日）	移住の歴史についての理解を促進し、複数言語文化環境で育つ子どもたちの可能性を広げる	移住学習；言語の４技能を統合したアクティブ・ラーニング型授業	自主作成教材	日系・非日系両方の生徒に日系のルーツを知ることの重要性を伝える；アクティブ・ラーニング；リーダーシップ教育
欧州	パリ南日本語補習校（フランス・ 根元佐和子；週1回）	家庭と教室、社会をつなげ、複言語・複文化及び多様性を尊重しながら、社会市民性を養う	テーマ（フランスと日本の少数民族）に基づくマルチモーダルなプロジェクト	国語教科書（文科省指導要領には準拠せず）；インターネット検索による生徒材;自主作成教材	CEFR/複眼的評価/アクティブ・ラーニング
	デュースブルク日本語学校でんでんむし （ドイツ・松尾馨；週1回）	複言語・複文化及び「出自語教育」の重視を通じ、肯定的な自己認識と日本語・日本文化を生涯にわたり学ぶ意欲を育て、社会参加を促進する	地域に関わるテーマ（「石炭・炭鉱」）を扱うマルチモーダルな全学的プロジェクト	自主作成教材；市販教材	CEFR/現地の学習スタンダードを反映；「仲介能力」を意識してドイツ語も積極的に活用
	コペンハーゲン市立母語学校（デンマーク・鈴木理子；週1回）	国際的な視野から言語と文化をとらえる姿勢を育み、生徒の積極的社会参加と高等教育進学準備を支援する	言語技能を統合したテーマベースの総合学習	自主作成教材；リライト教材；国語教材など	テーマ型；CLIL；トランス・ランゲージングなど
	スイス継承日本語ネットワーク（スイス・フックス-清水美千代，クレニン-道上まどか，ミューレバッハ-名倉千春，渡辺-ロッフェル芽； 週1回）	複言語・複文化を尊重し、継承日本語教育のよりよい発展にネットワークとして寄与する	オリジナル教科書を使った小学校低学年向け基礎授業；家庭での「仲介活動」；校外学習を含む作文授業	スイスで出版されたオリジナル教材；国語リライト教材など	CEFR （ 家庭と連携した仲介活動）/校外学習などのアクティビティーと日本語学習の効果的なつながり

個々の教育現場ではそれぞれの環境に応じて、対象者の多様な背景を積極的かつ柔軟に活かしつつ現地校での学びを継承語学習に転移させる工夫が多く見られる。詳細は海外継承日本語部会「カリキュラム・プロジェクト」のウェブサイトを参照されたい。発表校のうち南米の２校は、２世以降の世代が指導者となる点などにおいて、母語話者世代の教員が多い他の地域の継承語学校と文脈が異なるが、コミュニティーに深く根差した継承語教育を世代間で引き継ぎ、ホスト社会にも貢献するための課題とそれによる蓄積を考察し、継承語教育を幅広い視点から考えるうえでも貴重な事例となった。今後は豪州やアフリカなど対象地域を徐々に広げつつ、より多くの事例検討が進むことが望まれる。

引用文献

MHB 学会海外継承日本語部会「カリキュラム・プロジェクト」(2023)
https://sites.google.com/view/jhl-curriculum-project

加納 なおみ（國學院大學）